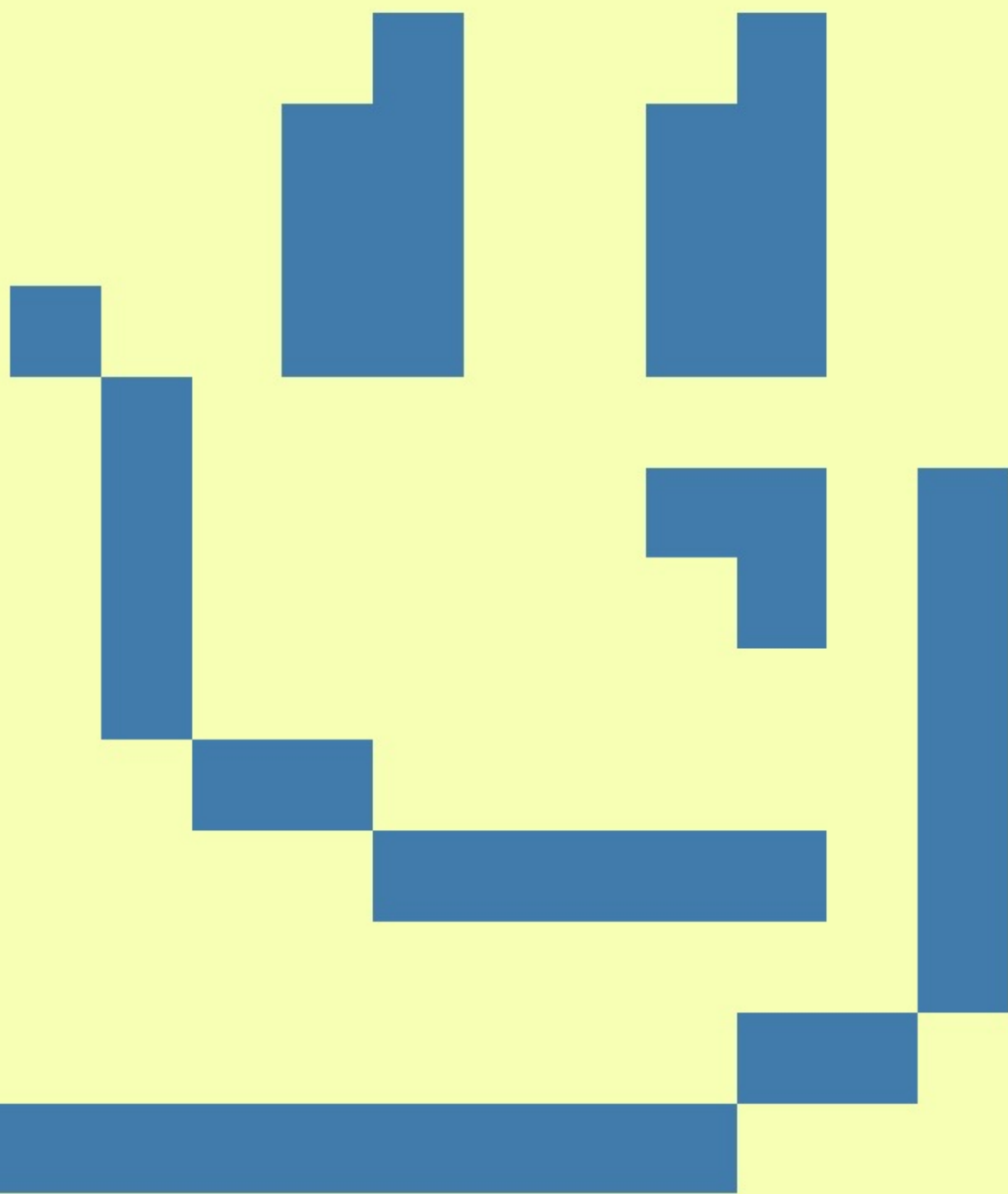


埼玉からおこしの
山田きみこ様

作 季子 うける



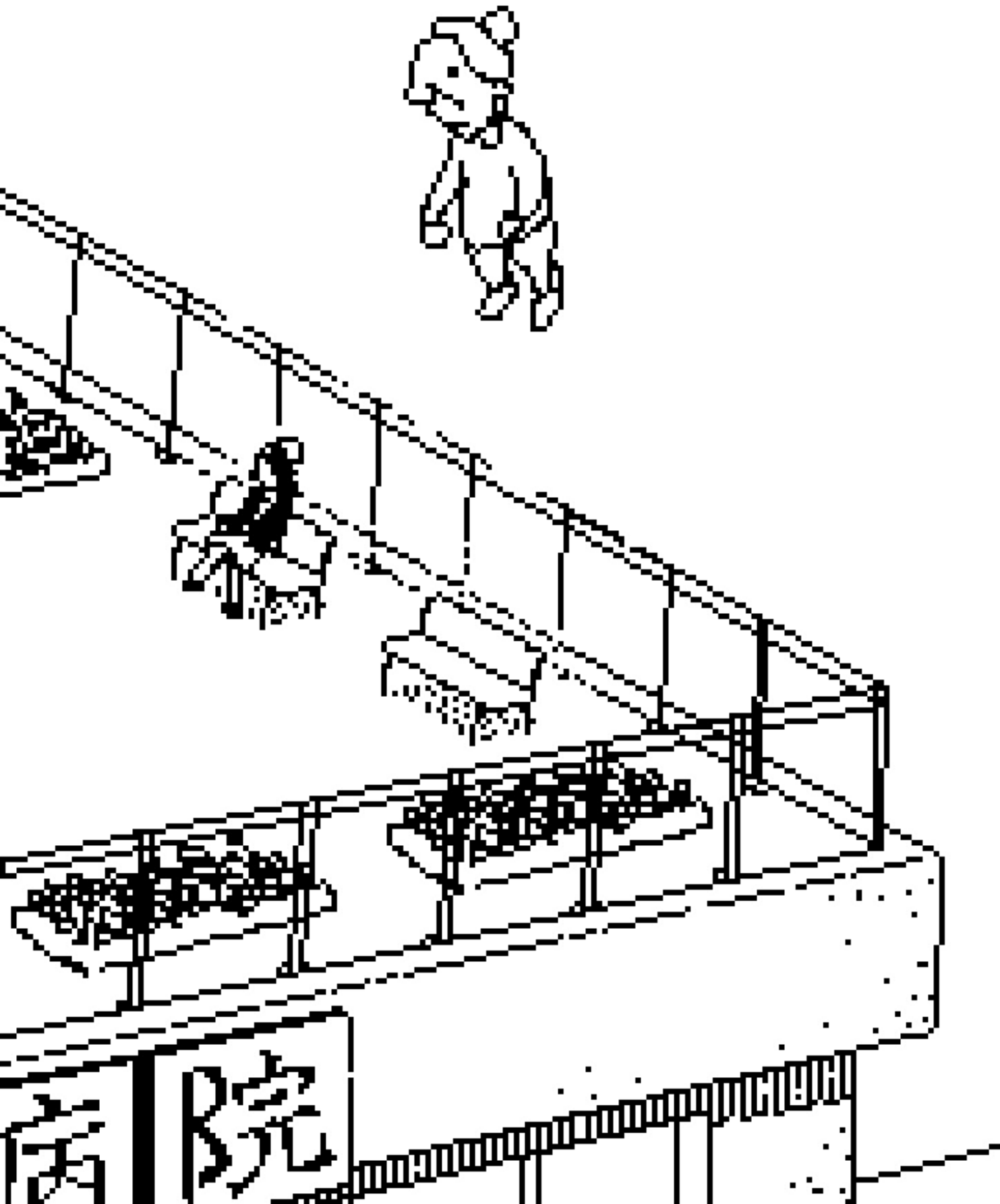
「 かんごふさん パンツみえてるよ。
足閉じなさい。」

「 聞いてないのかい? 」

「 ……………。 」



「 そうか。あたし 死んだのね
それじゃあ しかたのないことよ 」



「体が勝手に上に上がるよ。
ちょっと気持ちが悪いな。」





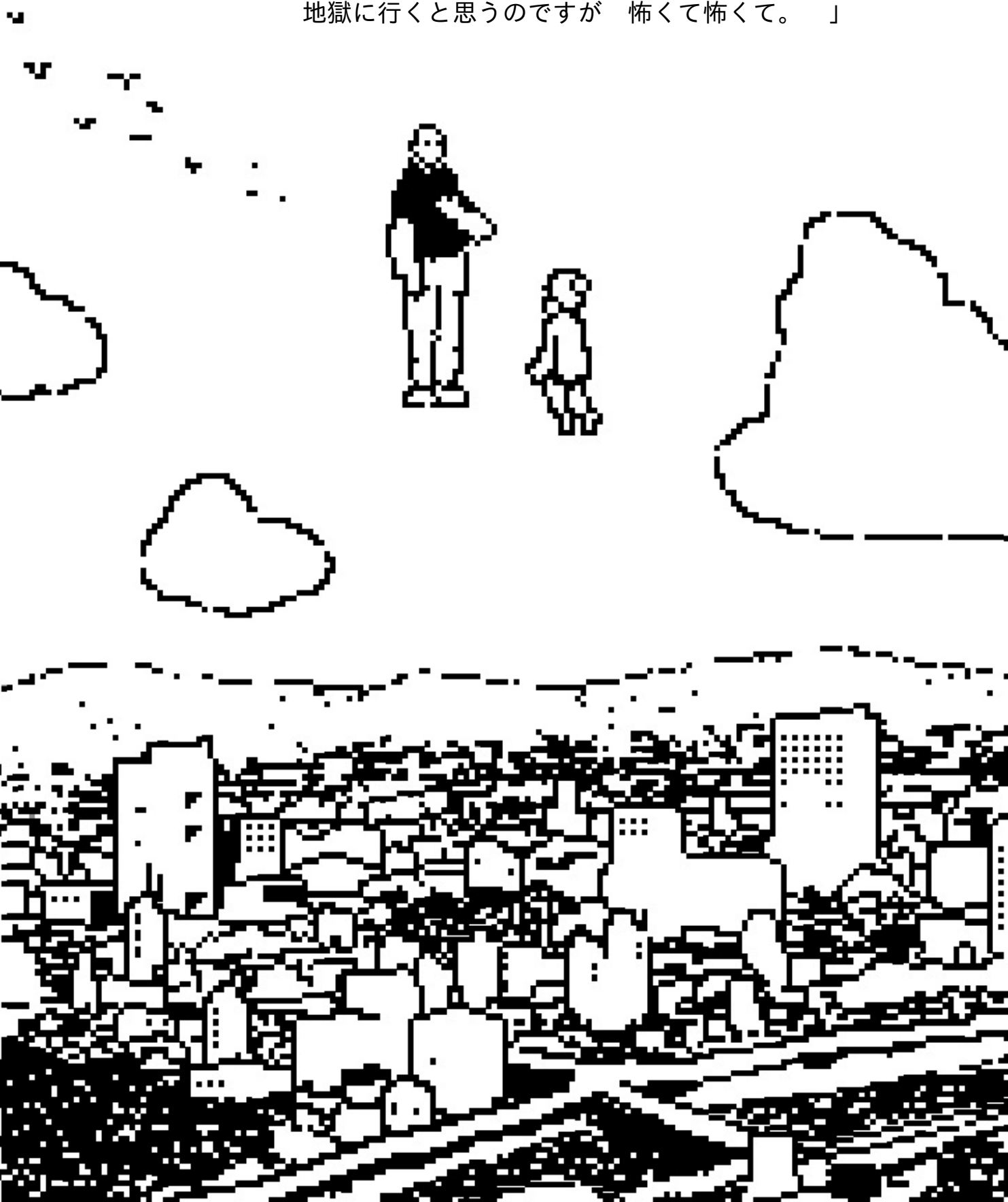
「 こんにちは。
あなたも 死んでしまった
方ですか? 」

「 こんにちは。ええそうよ 」



「 僕達 これから
どこに行くのでしょうか? 」

「 僕は生きている時に 悪いことをしたので
地獄に行くと思うのですが 怖くて怖くて。 」




「普通に生きてれば
地獄に行くわよ。
私も多分地獄だわ。」





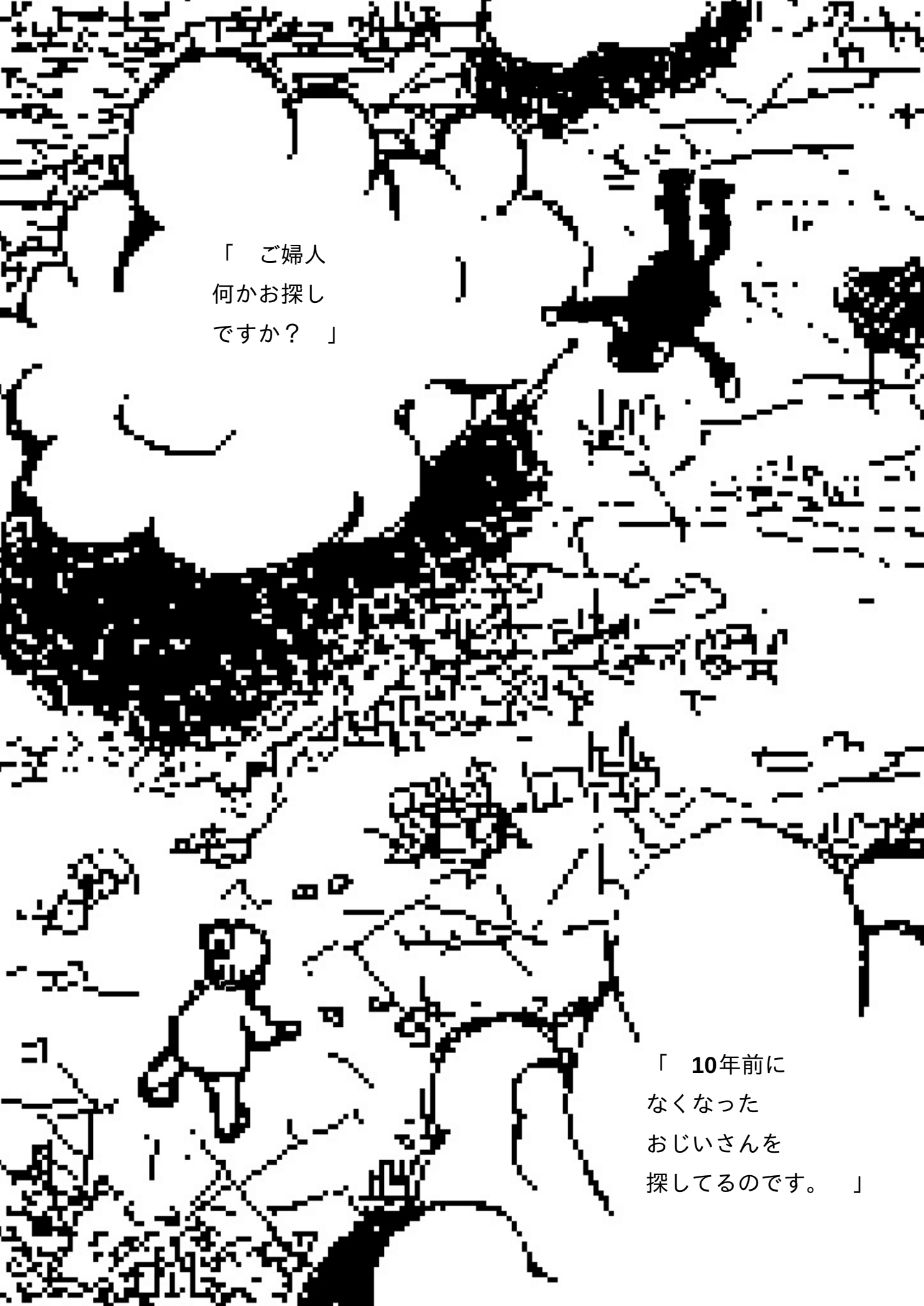
「 いっしょに
いきませんか？ 」

「 ごめんなさいね。
私これからおじいさんを
探すのよ。 」




「 とは言ったものの おじいさんと
会うのは むずかしそうだね。 」

「 まだ 体が上に上ってるよ。 」



「 ご婦人
何かお探し
ですか？ 」

「 10年前に
なくなった
おじいさんを
探してるのです。 」



「 10年前 !? 」

「 それは もう
お先に行って
しまっていると
思いますが 」

「 うーん。
おじいさんはなくなる時に
むこうで待ってるよって
いつてくれたんですがねえ。
」

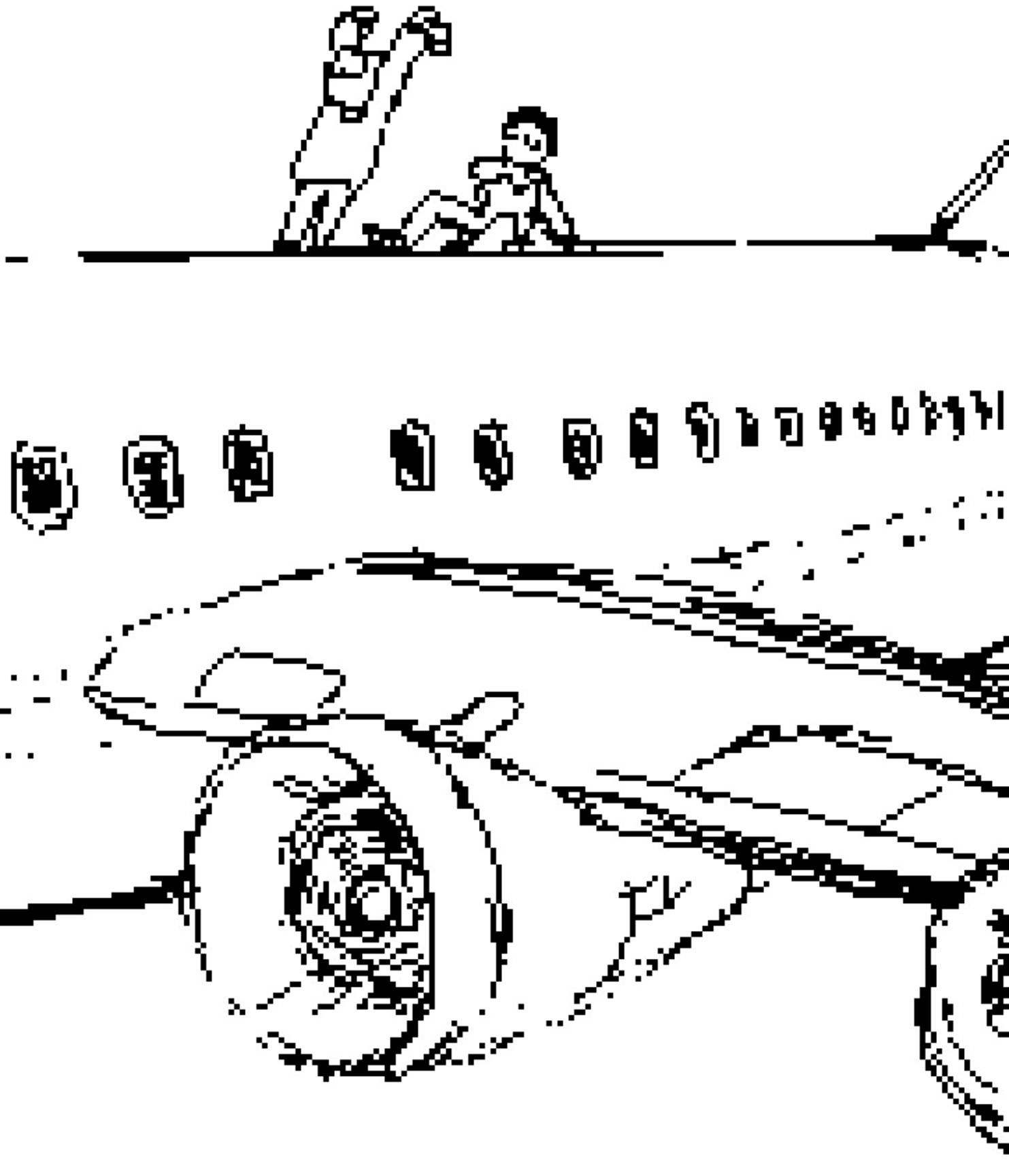
「ところで ご婦人。
次は何に生まれ変わりたい
ですか？」



「ちなみに私は人間以外だったら
なんでもいいと思っていたのですが
こうすると 次は鳥がいいなあ
と 思ってきます。」

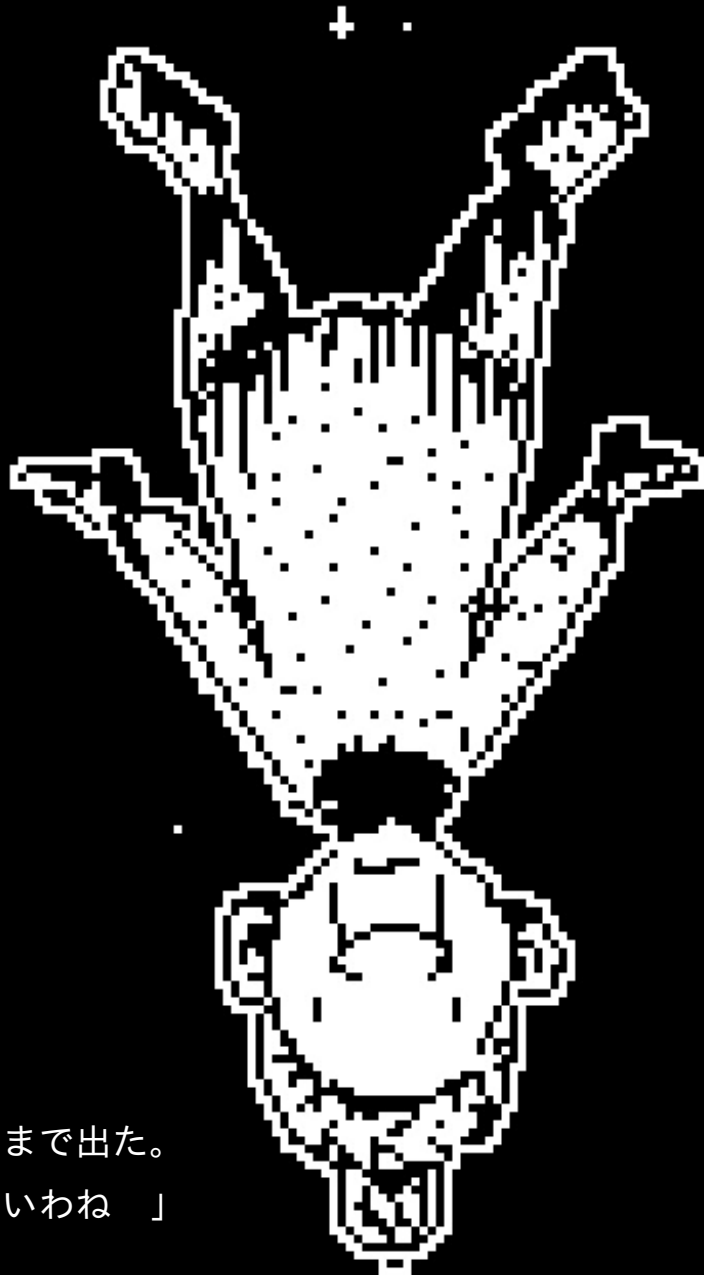


「もし生まれ変われるとしたら
あたしは 大きい熊がいいわよ。
ガオーってやりたいの。」





「 いつのまにか
どンドン 高くなってゆく。
このままいくと・・・ 」



「 こんなところまで出た。
おじいさん いないわね 」





「 こんにちは おばあさん
すっごく緊張しない？
ふふふ。 」

「 私達 これから
神様にお会いするのよ。
ドキドキするわ。
どうしましょう。 」





「 そうだね。
もしお会いできたら
一言だけでもいいから
感謝の意を
伝えたい。 」

「 そのあと
ひっぱたいて
しまうかもしれない
けれど。 」





「 どこまで 行くのかしらね。
おじいさんも見つからないし
さみしいところね 」





「 やあ。 不安で
キョドキョドしとるね。

大丈夫。

無 というのは一人であるが、
皆がなるものでもある。
だからあなたは 無 に対して
怖がらなくてもいいんだよ。

」

「 そんなこと考えてないよ。
おじいさんを見かけません
でしたか？ 」





「 見てないよ。
待ち合わせかい？
体が勝手にあそこに
向かってるからね。
人を待つのは無理じゃろ。 」

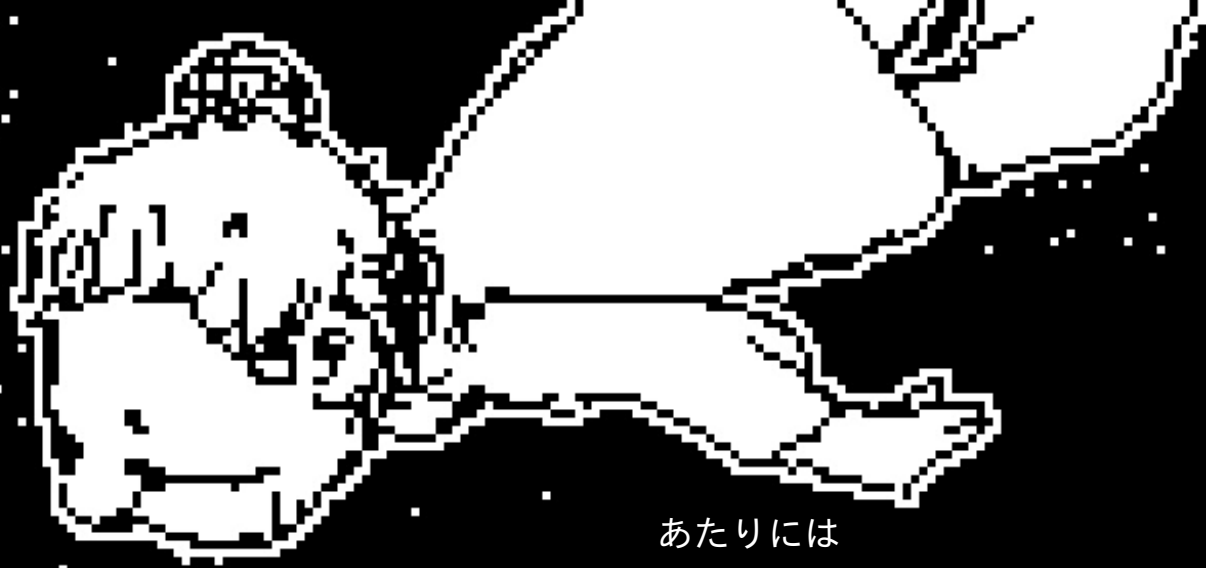
そう言ってその人が
指差す方にはとても
大きなウズがありました。

どうやら大きいウズの
中心に体が向かっている
ようです。





おばあさんはおじいさんを
キョロキョロ探しましたが
見つかりません。



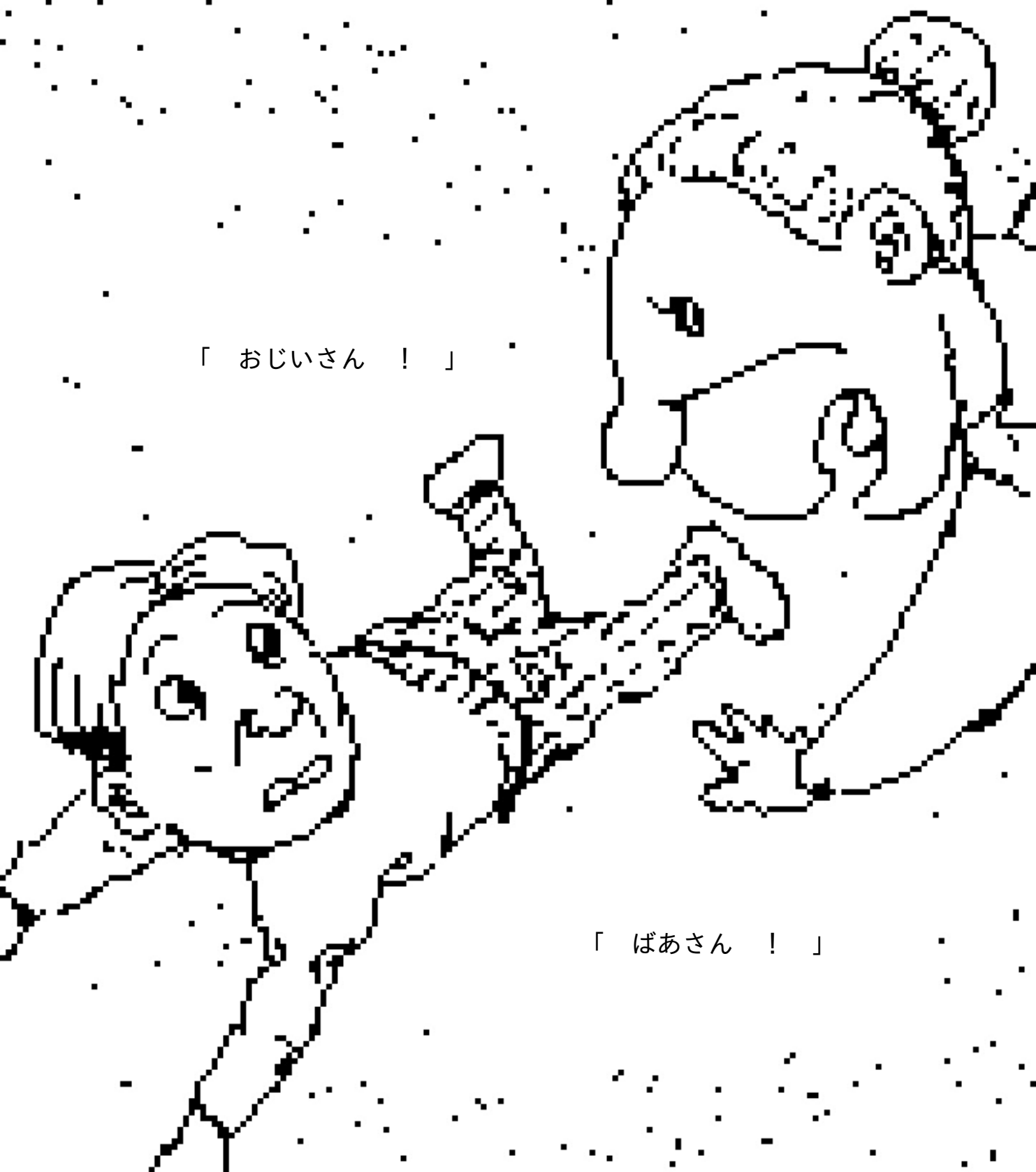
あたりには
無数の星があり、
とてもきれいでした。
おばあさんはその内の
ひとつの星がゆらゆら
ゆれているのを
見つけました。



近くへ行ってみると・・・

「おじいさん！」

「ばあさん！」



「 ずっと待っててくれたんですか？ 」



「 いや 今来たところだよ 」





「 もうまたあ。 どうやって留まっていたんです
？ 」

「 バタ足で留まっていたよ 」

！

「 ええ！ ずーっとバタ足 ？」

「 はははっ 」



、

「 みんなは元気だったか？ 」

「 孫のノブちゃんに子供ができたの。 」

「 へえ！ 早いねえ。じゃあ輝雪はじじいか！ははは！
ノブの花嫁姿みて見たかったなあ。 」



「 あたしも見てないのよ。死んじゃったから。 」

「 そうかあ！俺、輝雪、ノブ親子三代続きで
式をすっとばしたな！ がははは！ 」

「 もう。おじいさん。ふふふふ。 」

「 ありがとうな。ばあさん 」

「 こちらこそですよ。ほんと。 」





